



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ふれる博物館 第14回企画展「バードタッチング」関連イベント：鳥類学者が語る『骨から探る鳥のふしぎ』開催報告
Author(s)	島, 絵里子
Citation	にってんフォーラム, 133, 4-4
Issue Date	2024-10-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/93675
Type	journal article
File Information	nittenforum_133.pdf



ふれる博物館 第14回企画展「バードタッチング」関連イベント 鳥類学者が語る『骨から探る鳥のふしぎ』開催報告

北海道大学大学院文学院博物館学研究室 しま えり こ 島 絵里子

鳥類学者の川上^{かわかみかずと}和人先生を講師にお招きして、講演会及びワークショップ「鳥類学者が語る『骨から探る鳥のふしぎ』」を、8月24日に開催しました。

午前と午後の二部形式。午前は講演会で、視覚に障害のある方が26名、付添の方が17名、晴眼者が5名の、合計48名が参加しました。午後はワークショップ。視覚に障害のある方が10名と付添の方が3名で、その内12名が、午前の講演会にも参加した方々でした。

講演会では、まず、鳥の形態や進化のお話をお聞きしたのち、ペリカンやダチョウ、ニワトリなどの骨のほか、フクロウやタカなどの翼の羽根を触りました。すべて、実物の標本です。参加者からは、「生物の進化の過程からの鳥の貴重なお話、とても興味深く聞き入ってしまいました」、「ダチョウとペリカンの骨を触って比較できて、走ること、飛ぶこと、それぞれに適応した進化が実際に伝わってきた」などの感想が寄せられました。

続いて、ワークショップ。参加者とスタッフ全員で自己紹介をしたのち開始。一人一人の目の前には、サギ一頭の実物の骨と、鳥のタッチカービング（木彫り）が置いてあります。まず、タッチカービングで鳥の全体の形を把握してから、サギの骨に一つずつ触っていきました。上腕骨、^{とうこつ}橈骨、^{しゃこつ}尺骨、胸骨、^{りゅうこつとつ き}竜骨突起、^{とうがいこつ}頭蓋骨などなど。川上先生の説明を聞きながらサギの全身の骨に触ったあとで、今度はペンギン、カツオドリ、タカの骨などを触りました。それぞれの環境にあわせて、それぞれの骨の形は違って、その環境にあわせて使いやすい骨の形になっていると感じ、驚いてはまた触るという時間でした。

触るからこそ分かる。実物標本の触察から実感した時間でした。またこのような企画をできたらと考えております。